

2018 度 小委員会活動成果報告

(2018 年 1 月 4 日作成)

小委員会名	都市・地域構造再編小委員会	主 査 名：松川寿也 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：小浦久子 主 査 名：小浦久子
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	2017 年度：研究方針に関する検討・事例の収集を通じた研究・分析の枠組みの共有 北上市・花巻市での合同見学会・ヒアリング調査の実施、学会大会における OS の実施 2018 年度：事例発表を通じた基礎的情報の共有と各視点から見た課題の整理 学会公式催事（公開シンポジウム×2 回）の開催、学会大会 OS の実施、神戸市での合同見学会・ヒアリング調査の実施 2019 年度：目標都市構造像と実現手段との乖離状況の把握と新たな制度のあり方に関する検討 PD の実施、学会大会 OS の実施、合同見学会・ヒアリング調査の実施 2020 年度：新たな制度設計に関する提案 合同見学会・ヒアリング調査の実施・学会大会における OS の開催	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 松川寿也(長岡技大)、姥浦道生(東北大)、原田陽子(福井大)、秋田典子(千葉大)、片山健介(長崎大)、川崎興太(福島大)、小林敏樹(北九州市立大)、柴田祐(熊本県立大)、恒川和久(名古屋大)、中西正彦(横浜市立大)、野澤千絵(東洋大)、星 卓志(工学院大)、眞島俊光(日本海コンサルタント)、吉田樹(福島大)、吉次 翼(日本商工会議所)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2018 年度予算	245,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://urban.nagaokaut.ac.jp/~plan/toshtiikikouzou/toshtiikimain.html

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. 学会公式催事「公開シンポジウム 『立地適正化計画』の適正化計画」建築会館 平成 30 年 8 月 22 日 (第 1 回) http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2018/I050.pdf 平成 31 年 2 月 18 日 (第 2 回) http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2018/0218_I050.pdf 2. 立地適正化計画先進事例視察及び行政職員との意見交換会「神戸市」(参加委員 7 名+行政関係者十数名) 平成 30 年 11 月 16 日 活動報告 URL ↓ http://urban.nagaokaut.ac.jp/~plan/toshtiikikouzou/kobehoukoku.pdf
大会研究集会	1. 2018 年度日本建築学会オーガナイズドセッション 平成 30 年 9 月 4～5 日にかけて 4 セッションで開催 (参加者数 40 名程度)
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p style="text-align: center;">目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 学会公式催事として、公開シンポジウム『立地適正化計画』の適正化計画」を年度内に二度開催した（第二回は2/18に開催予定）。第1回のシンポジウムでは、都市計画コンサルタントや国土交通省職員をはじめとする会員外の参加者を含む約50名の参加があり大変盛況であったことから年度内での複数開催とし、同シンポジウムで活発な意見交換がなされた。ここでの議論を受けて、次年度PDの企画を検討した。</p> <p>2. 昨年度に引き続き立地適正化計画の最新の取組みや実践例に関わる見学会及び行政職員との意見交換会に加えて、大会OSによって、都市地域地域構造の再編の現状と課題の把握を進めた。特に、神戸市での現地視察と意見交換会では、市職員の方からも多数同席いただき、立地適正化計画策定事情の実態に関わる情報を収集した。</p> <p>3. あわせて定例の小委員会（5回）では各委員間での議論にとどまらず、一部小委員会の場にて立地適正化計画制度の制度化に携わった直接の担当者と同制度を担当する国土交通省の現役若手職員を議論の場に招くことで、全国的な情報共有や実際の政策運営への反映を試みた。</p> <p>上記を基に、都市地域再編の実践例、立地適正化計画とそれを実現する規制と誘導のあり方等に議論を深耕させ、次年度大会での開催を予定しているPD等次年度以降の活動に向けて調整中である。</p> <p style="text-align: center;">以上より、本年度の活動計画は当初の想定通りに達成できたと評価する。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 活動資金の獲得。</p> <p>2. 見学会旅費の確保（特に、都市計画コンサルタント等大学関係者以外の委員のための旅費）。</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。